○４番（山口裕子君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。登壇の許可を得ましたので、ただいまより山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

４月の選挙により市長と26名の議員が選出され、新しい議会がスタートいたしました。市民の皆様はある意味、いろいろな期待を持って市長を選出され、議員を選出されたことと思います。私も選挙期間中に本当にいろいろな声、武雄市政に対しての意見をいただきました。そして、きょうは４日目ということで、このスタートしてからの４日間についても、私のところに電話があったり、メールが入ったり意見を届けていただいております。

私も再度ここ４年間、武雄市民のために本当に頑張っていこうという決意とともに、私はやはり母親として子どもたちの未来が本当に安心・安全で豊かな武雄市であることを願ってここに立たせていただいております。そういうことを思うときに、きのう来、この４日間、１億3,000万円ということで、市民の方が許せない、何とかしてくれということで、きょうも朝早くから電話がありました。私としても新しいスタートとして本当に前向きにこの武雄市のためにやっていこうという気持ちでありました。市民病院も無事民間移譲となり、新しい新武雄病院がとても評判のいいことを私に話が何件も入ってきます。それは執行部、議員、市民の皆様、市長ともに、本当にここまで議論し合いながら、４年間のうち３年間はそれに費やしてきたと思うんです。結果がそういういい形になってきているところ、本当に武雄市民の血税１億3,000万円は何とかしてくれということで、きょうも朝早くから電話をいただきました。

私が武雄市民として、一市民として言えることは、自分は山内町出身でありますので、最初から市民病院にかかわっておりませんでしたが、今こうやってかかわって民間移譲になりまして、前よりもよくなった、入院して手術をしたりして、本当に安心してかかられて、たくさんの声が寄せられております。私としても高齢の親を抱えておりますので、そういう意味では救急医療がすぐ始まったこと、それから、いつ自分の車ででも24時間対応していただけるということ、あと、次の世代にツケを残さない赤字の解消ができたということ、あと、また今厳しくて仕事がないという中に、雇用の対策、雇用の確保ができたということを含めれば、市民の皆様は本当によかったんじゃないか、何が問題なのかということをきょうも切々と訴えられました。

私は今回、観光産業と環境問題という形で提案しております。市長には新しく始まる４年間を気持ちよく、市長の意欲を聞きたいなと思っていたんですが、これを観光産業は別としてまた後で聞きたいと思いますが、この選挙を通してでもいいと思いますが、この４年間、市長がこれから思うこと、そしてそういう決意、意欲をお聞かせしていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、非常に残念な御質問があったんですね。石橋敏伸議員の御質問の中で、選挙で議員の皆さん、私も選ばれました。その中で最後のときに、「次は明るい選挙にしたい」とおっしゃったんですね。私は、それは個々人のお考えは自由だと思います。自由だと思いますが、では、翻ってみたときに、今回の直近の選挙が明るい選挙ではなかったということは私は断じて思いません。投票率が下がったことが、例えば夕方８時が６時になった。私、一言もそんなことは聞いていません。あえて言うならば、これは私の私見ですが、例えば今回、議会選挙、26人の定数で30人の方が真摯に戦われました。その投票率が高かった４年前、定数30で恐らく39人、それだけ選択肢が減っているんですね。そういったことを考えてみた場合に、私としては、これは私の私見でありますけれども、決してそんなことはない。その選挙を否定するということになると、私はこの４年間、その選挙で託されているわけですね、議会の皆さんも私も。ですので、それはもう絶対にそんなことはないということを強く申し述べたいと思っております。

その上で１億3,000万円の話が出ました。この訴状の内容については、公判に影響を与えますので申し上げませんけれども、きのう山口昌宏議員から御質問があって、きょう私にも多数の電話がありました。自分たちの血税で何で裁判の費用が賄われなきゃいけないんだということ、私はこれに対して、私も当事者の一人であります。ですので、私はこの４年間皆さんとともに仕事をしたいと思っております。

そこで、記者会見の場に同席された平野議員と江原議員にあえて申し上げたいことがあります。それは、今回の住民訴訟というのは、あくまでも市役所が訴えられているわけですね、市役所が。市役所が訴えられている。その市役所が、損害を与えた本人の21億円を請求しなさいと、請求権を確保しなさいというのが今回の住民訴訟の本旨であります。その裁判費用に要する経費は、これは私が払うわけではいけないんですね。あくまでもそれは市の財政から払わなきゃいけない。市民の皆さんたちの負担から血税から払わなきゃいけない、これが１億3,000万円だと。しかも、私は勝利を確信しておりますけれども、もし市役所が勝った場合に、それは弁済してもらうすべがない。すべて持ち出しになる。ですので、お願いがあるのは、訴訟の目的がわかりません。もし目的が、この判断がおかしいということであれば議案としてぜひ出してほしい、議案として。それで、私がもし司法的な責めを負うということは、私を訴えてほしい、私を。市民を、市役所を訴えて、その血税が市役所から出るということは、市民の税金である。そうなった場合に、これは私の解釈論ですけれども、それはある意味、血税を払う人たちが訴えられているのと同義じゃないでしょうか。（「そうだ」と呼ぶ者あり）もし訴えるんであれば、私を訴えてください。市民が余りにもかわいそうです。私を訴えてほしいんです。それで、私は平野議員、江原議員を初めとする共産党の議員

の皆さん、記者会見に同席された議員の皆さんたちと議論を司法の場で闘わせようじゃないでしょうか。

そういったことを考えながら市政運営をしなきゃいけないといったときに、その１億3,000万円というのがさまざまな事業に、例えば子宮頸がんのワクチンであるとか、みんなのバスであるとか、そういったところに、学校も先ほど一般質問の中で教育委員会のほうから計画どおりしていくと、計画どおりできませんよ。そういったことを逐次考えながらやっていく。ですので、私としては、あした議案審議がありますけれども、ぜひ傍聴にまたお越しいただいて、そういった場で私は論戦をまた闘わせていきたいというふうに思っておりますけれども、いずれにいたしましても、この４年間ということは、この解決なくして私は次に進めないというふうに思っております。

一方で、それは司法の場ですので、もうこれ以上私から公判の内容について申し上げるすべもありませんけれども、それはそれとしてね、やっぱり心ある、もう議会の皆さんみんな心ある方々と思っています。力を合わせて市民の福祉の維持向上のために微力ながら力を尽くしてまいりたい、これが私の思い、一心であります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございました。

私も市民の皆さんからどうなるのか、どうしたらいいのかというふうに問われても、市長がここで答弁されたとおりだと思うんですが、前向きにとらえて、本当に元気のある市政づくりをやっていくしかないなということをいつもいつも考えております。本当にそういう問題が、皆さんが一致団結して前向きにいいほうに進んでいくことを願うしかないかなというふうにいつも私は思っております。

今回は、余り上げたことのない観光産業ということについてまずはお尋ねするんですが、やはりどこの商売というか、私は農業振興とか、そういう部分が多かったみたいで、観光産業のほう、旅館業とか、そういうところの分でも、どうか議員さん、政策として上げてくださいということでした。やはり今度口蹄疫という分でまた出てきましたら、家畜農家の方のことを思うと、本当何とかせねばという気持ちで、現場は大変厳しい中にあるということを踏まえて、一般質問をさせていただきたいと思います。

１番目に観光産業についてということで、武雄ブランドということではたびたび上げさせていただいておりましたが、今回は６項目ぐらいの形でお尋ねしていきたいと思います。

４年間、そういう中、市長はブランドづくりという形でトップセールスなり、本当に動いていただきました。なかった朝市も順調に運営されているようですし、今までの４年間のト

ップセールス、ブランドづくりができたものを、これから４年間観光戦略として、また新しく始めていくに当たってどういうお考えをお持ちかをお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄の観光に関しては、非常にいい形になっていると思います。確かに去年の老舗の大型の旅館が倒産になるなどいろんな悲しい話題も、これも何か私のせいだと言う方もいらっしゃったやに聞きましたけれども、それはどうかなと思いますが、それは別としても、全体としては今いい形になっているんですね。例えば、いろんな旅行雑誌であったときに、今までは、名前はあえて言いませんけれども、ほかのところがあって武雄というのはあったんですけれども、例えば小柳議員が御質問であったように、馬場の一本桜が一番大きく出ている、あるいは武雄の、例えば、がばいばあちゃんのロケ地、朝市が、順番が上がってきて出ているんですね。だから、そうなってきたときに、やはり期待度というのは私たちが考えている以上に大きいと。そこで、やっぱり大きいのは一致団結だと思うんですよね。だから、観光業の方々、農業を経営されている方々、そして私たち、狭い意味での行政も含めて、一致団結して武雄を売っていこうと。そういう環境ができつつあります。

私がうれしいのは、きょう昼休みに、丸田延親さんが私のところにお見えになるそうです。これ実は、時期はまだ正確にちょっと担当から聞いておりませんけれども、丸田宣政さん、そして延親さんの息子さん、今、大学で修業されているそうなんですけれども、親子３代展を図書館の横の企画展示室で行うと。ちょっと浦郷教育部長がうんと何か言って――よかとですよね。ということでなるということと、私は、きょうそのごあいさつにお見えになるというふうに聞き及んでいますので、そういったことが地元の皆さんたち、これは松尾重利先生が２年前でしょうか、されたように、そうやって私たちが市民の共有財産として持っているところでどんどん出していく。そうなってきた場合に、窯業と、来られるとなると、また旅館からの搬送とかというのもなるんですよね。そういうところで、ひとついろんな会議をするということも一方で大事。

もう１つは、そういう地元にあるすぐれた、そして意欲のある陶芸家の皆さんたち、今回、陶芸の例を出しましたけれども、個々いろんな実力、あるいはやる気のある方々をどんどん出していくというのが今度の次の私の役割だと思っています。ですので、そういう意味でいうと、私は４年前の武雄しか知りません。それをあえてホップとするならば、今ステップの段階に来て、そこで今頑張っている人たちを、私の役割としては押し出していくということでやっていきたい。そのためには、ぜひ一致団結をしていくということだと思っております。

いろんな新聞が、次は武雄は何をやるんですかということをやっぱりよく聞かれるんですね。次は何をやるんですか。だから、新聞、あるいはテレビもそれを待っているわけですよ

ね。だから、今は物すごくチャンスだと思っておりますので、それを観光という面で生かしていきたい。それが結果的に武雄市民の所得の維持向上につながるように政策をリンクさせていくというのが私の役割だと思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

武雄というのは本当に伝統的といいますか、いで湯と陶芸のふるさとというところでは基本となるところがあって、それに新しいブランドというか、物がコラボしていくという形が今から生まれてくるんじゃないかなというふうに思われるんですが、目の前にして西九州新幹線があと８年後ということでもありますし、やはりチャンスをつかむという点では、今市長が言われましたように、やはり武雄市、武雄市観光協会、旅館組合、武雄商工会議所、武雄市商工会などの各機関がもっと連携することが大切じゃないかなというふうに私は思います。やはりそれはなかなか難しいことだと思いますが、合併して４年がたちました。それで、武雄商工会もやっと昨年、北方と山内が合併して武雄商工会となったこともありますので、この全部が一致団結して、連携とって何か話し合いがなされているとか、もうこういう動きはありますよということができているかどうかわかりませんが、そこら辺の動きがあるかどうか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

渕野営業部長

○渕野営業部長〔登壇〕

観光振興のための商工会議所、商工会、あるいは旅館組合等の連携はうまくいっているかという御質問でございますけれども、まず、既存団体の連携については、御承知のとおり、商工会が平成21年４月に合併をいたしました。ことし22年の３月には旅館組合が統合したばかりでございます。以上のような状況であり、今後、観光振興のために積極的に各種団体が連携できるように支援をしていきたいというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あとやっぱり合併というのはいいですよね。やっぱり時間があることによって、だんだん顔の見える形になってきて、例えて言うと、武雄市商工会の皆さんたちが口蹄疫の募金をするといったときに、私のところにも話はありましたけれども、例えば武雄商工会議所の青年部であるとか、いろんな団体ですよね、観光協会で。団体だけじゃなくて、個人としてわあって動いておられて、それがもう実際この４年で顔の見える形になっているので、私の４年

前と比べると話が非常に速くなっているというのは実感します。ですので、そういう個人個人のつながりというのが深く広くなっているんだなというのは、この前の口蹄疫の募金のときに、それは古川康知事が非常に驚かれていました。武雄は速いと。しかも、広がりのスピードがほかと比べると速いということを知事御自身もおっしゃっておられましたので、それはやっぱり私もそうかなと思っておりますので、今後ともそういうつながりをもっと広く深くするように、私も当事者の一人として、あるいはそれをさらに推し進めるという役割をしていきたいなと思っております。

最後にしますけれども、これも武雄市の商工会の青年部の方々がやられていますけれども、おむすびパーティーをやると。お結び課の開設記念として、お結び課の開設記念を長助窯でやるということ、これは余り言わないでくれと言われているんですが、人がいっぱい来るから。でもうれしいのは、そういうことを自分たちでどんどんされていて、もう私たちが知らないところでいろんなネットワークがして、もうどんどんどんどん進んでいると。非常に今いい形になってきているんだなというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

そうすれば、次はステップの順で動いていくのかなというふうに思いますが、これだけの団体が一つになるというのは、すごく大きな力ではないかなというふうに私も思います。市長は本当にトップセールスも得意で、いろんなものを投げかけてこられますので、ここが連携していると、また力強い武雄市になっていくんだと私は思います。

あと、根底に、やはり私も温泉好きですし、私は唐津焼の唐津出身なんですが、焼き物が好きです。本当にいで湯と陶芸のふるさとというのが根底にあるというのは大きな財産というか、そこにいろいろなものがかかわってきて、またいいまちづくりになっていくんじゃないかなというふうに私は思っています。

次の質問が、また武雄市にある90窯元の方たちが武雄焼とか古武雄という形でいろんな動きをされていますので、お昼からはその質問に入らせていただきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

質問の途中ですが、議事の都合上、午後１時20分まで休憩いたします。

休　　憩　　11時59分

再　　開　　13時18分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

４番山口裕子議員の質問を求めます。４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

午前中から続きまして、観光産業の中の武雄ブランドについてですが、いで湯と陶芸のふるさとということで、陶芸の観光に向けてでお尋ねしたいと思います。

私も個人的に焼き物が好きで、最近こういうチラシというか、パンフレットがあちこちで見かけられます。町なかには旗で「武雄焼」というのがたくさん出ているようですが、武雄焼ということで、今、陶芸家の方というか、観光協会が売り出しておられますが、まだ１年ぐらいですか、広報宣伝を初め、まだまだ皆さんに知られていないんじゃないかということで陶芸家の方からお話があったんですが、至るところにこういうポスターとか旗がのぼっております。本当に武雄焼というのが今から売り込んでいくというところで、それの根拠ですね。それと、今からの支援策、そういうところを市長にお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

波佐見焼は、ちょうど20年前に、もともとあそこは違う呼び名をしておったときに、そこの観光協会の方であるとか、波佐見の陶芸協会の人たちが、自分たちの焼き物を「波佐見焼」と呼ぼうということを言われて、20年かかって波佐見焼というとがもう浸透しとおですもんね。この話を今、九州陶磁文化館の鈴田館長さん、そして元議長さんの、今、観光協会の会長であられる大坪勇郎さんから話を聞いて、そいぎ、武雄焼ていうぎ、20年かかって、今、武雄はスピードが速いですので、そいぎ、３年ぐらいでもう広まろうという話で、とにかく武雄焼というのを我々関係者が言うていこうということでしていこうというのが武雄焼。

ただ、もう議員御案内のとおり、もともと歴史のあるわけですよね。武雄焼は、今、古唐津の武雄系と言われて、もともと武雄が源流になっていると。松浦川を初めとして源流になっている。そして今、中島宏先生から伺いましたけれども、あそこの小田志焼ですよね。あそこもともと船着き場があって、そこからどんどん出しよったということ。そして先ほど黒牟田の丸田延親先生ともお目にかかりましたけれども、もともと数百年歴史のある窯元であるといったところから、もともと呼称として、呼び方として武雄焼はなくても、やっぱりもう歴史的、文化的に見ても武雄焼なんですね。ですので、どんどん言うていこうということから、発起人はいろんな方がいらっしゃると思いますけれども、我々も含めて言うていこうということで、先ほど議員が御紹介していただいたパンフレットであるとか、のぼり旗であるとか、そういったことで、行政としては基本的に広告支援ですよね、後方支援という形で応援をしていきたいなと思っております。

そして、いろんなイベントするには補助金ということもあろうかと思いますけれども、私は杵藤広域圏の管理者でもありますし、幸いにして吉川議員、末藤議員とうちの副市長が広

域圏の議員でもあるんで、そういった形で広く杵藤広域圏の目玉としても応援をしていこうという心づもりをしております。これは応援して、声を上げて広まるというふうに認識をしておる次第であります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

これから具体的な応援の仕方とか、支援策とかもいろいろ出てくるかと思います。私も今回質問することに当たっていろいろ調べてみると、ああ、武雄というところは本当にすごいんだなという、武雄焼、古武雄というんですか、古唐津に対してですね。江戸時代から伝えられた焼き物のすごさというか、そういうところをもっと自分たちの武雄に住んでいて、私たち市民が誇りに思えるようなそのブランド、そこが本当に、市長がこの４年間、がばいばあちゃんとか、レモングラス、イノシシとかいろんなので本当起爆剤というか、武雄を有名にして売り込んでもらって、トップセールスしていただいて、いろんなものが出たと思うんですね。でも、根底にすばらしい伝統ある、誇りに思えるいで湯と陶芸のふるさとというところにまたそういうものがマッチングすると、ますます武雄が輝いていくんじゃないかなということで、私もこういう話を受けて、自分は焼き物が好きだから、まちなか陶芸祭とか、いろんなところで焼き物を見て回るんですが、やはり武雄に住んでいて知らないというのももったいないので、こういうアピールをもっとしていただくといいんじゃないかなというふうに私は思いました。

波佐見焼も先ほど市長のほうからありましたが、ちょっと調べてみると、有田焼から離れて、波佐見焼というのは何か10年かけて知名度を上げたと。だから、10年かけて波佐見焼というのが定着したというふうにあるものに書かれていたので、武雄焼というのもこういう売り出しをすれば、私たちの本当に誇りとなるような観光産業というかな、そういう形に土台としてなっていくのがいいんじゃないかなというふうに私は思います。いいものは残っていくというか、そういう形の売り込みですね、そういうのも市長に今回、この４年間アピールをしていただきたいと思っておりますが、どういうお考えをお持ちでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりうれしかったですね。きょう丸田延親さんが私のところにわざわざお越しいただいて、９月４日から親子３代展を行うということ。２週間ですけれども、行うということで、これから基本的なコンセプトとか決まっていきますし、何を置くというのは決まっていきますけれども、こう言われました。一回飲み会の場で私が言うたとですよ。「３代展ばせんで

すか」て言うたぎですよ、あの市長の一言で自分は決心したと。もしあの一言がなかったら、もうこれは二度と武雄ではしとらんやったろうて、きょう私に言うてくんさったですね。

ですので、私が行うことは２つ。１つはきっかけをつくること。やっぱり私は市長ですので、言葉の重みに十分思いをいたして声をかけることですよね。もう分け隔てなく声をかける。

それともう１つが、これぜひいろんな方々が見られると思いますけど、市の施設を活用してほしいということなんですね。陶芸だけに限っていえば、若木在住の凌山窯の松尾重利先生が個展をされて、県内外から物すごくお越しいただいたということ。第２弾として、丸田宣政さんを中心として３代。そしてきょう聞いたら、亡くなったおじい様の作品も出したいというふうにおっしゃるので、実質４代展なんですね。ですので、そういったこともされる。ですので、これが続いていくというふうになれば、そのときに黒牟田であるとか、武雄焼であるとか、そういったことをどんどんどんどん言うことによって、これＤＭとかでも随分出されると思いますので、そういったことがつながっていくというと、もう本当に武雄が文化の中心に、本質的に、本来の意味でなり得るというふうに思っております。

これネットじゃ無理なんですね。私もネットが好きで使いますけれども、それは無理。やっぱり本物、来てみてもらって、さわってみて、そしてあわよくば買っていただくというふうに進めていくようなプロセスをつくってまいりたいと思っております。

武雄の陶芸、もともとすぐれた伝統、歴史がありますので、今度は新たな形で、温故知新をもう一個、一定温故創新ですよね、古きを訪ねて新しきをつくるということに、その一助になれればいいなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

陶芸のふるさとということでは、山内に70窯元もあるわけですね。武雄に20窯元で、90窯元の陶芸家の皆さん方ですね、作陶家の方がいらっしゃるということは、本当に有田に次ぐ焼き物のまちというような気もします。やはりこういうチャンスに遭わないとなかなか、市長は作家の方とか名前とかいろいろ御存じですが、本当にそんなにすばらしい方々が武雄にいらっしゃるのかなということとかをやはり知るチャンスというか、そういうことを市民として知るチャンスになったので、私も本当によかったなというふうに思っています。

あとは、伝統的な江戸時代から伝わるものを焼いたりとか、あとは新作、新しい焼き物に携わっている方とか、いろいろな窯元さんがいらっしゃいます。武雄ブランドと言ったときに、やはりいろんな声を聞くわけですね。「もうレモングラスとかは10年も続くもんか」とか、「イノシシは今のことだろうもん」とか、こう思い当たってするみたいな、そういう軽さがあるとか、私だけじゃなくて、あちこちそういう声も聞いたりするわけです。そして、

がばいばあちゃんだって好き嫌いがあったりとか、でも、私はいで湯と陶芸のふるさとという根底に、いろんなもののブランドがどんどんついていっていいんじゃないかなというふうに思います。それが元気のもとじゃないかというふうに思っています。それをマッチングさせるというかな、それでやはりいろんな手がけていっている人たちが元気になって、経済的にも効果が出てくるというのが本当のまちおこし的なことじゃないかなと。あれをしてくれ、これをしてくれじゃなくて、自分たちが頑張っているところに、市長がそういうバックアップをするというまちづくりというのが一番大事じゃないかなというふうに思っております。

レモングラスといえば、焼き物の陶芸家の人たちが釉薬を使って焼かれています。本当にきれいな乳白色というか、すてきな焼き物ができていますので、ぜひとも武雄市内、町なかでレモングラスを飲むチャンスがあったりとかいうときには、やはりその焼き物で飲めるというチャンスがあるといいなと思いますが、市長はどういうお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだと思います。実際、お名前をあえて上げませんけれども、作家の方であるとか、陶芸作家の方であるとか、あるいは旅館でも、もうレモングラスティーを出すときは、レモングラスの釉薬を使った器を出していただいている旅館もありますので、その動きというのを広めていきたいというのと同時に、その根底にですね、実はいろんな話をするときに、出るくいは打たれる、出過ぎたくいは打たれないということを聞いて、じゃあ出過ぎようと思って、レモングラスもイノシシもがばいばあちゃんもやってたら、出過ぎたら100倍打たれました。この議会でも打たれましたけれども、そしてまた、１億3,000万円の訴訟費用もかかりますが、とにかく何というのかな、精神的、あるいはここ武雄はすごい保守的なところだということと、派閥が物すごくきついというのは、私が生まれたときからもうみんなそれは言っていました。それをそのままだとやっぱり進まんわけですね。何でもかんでも、あいが言うけん反対すっばいとか、この前、会議ばしよって、隣のところで、市長が言うぎんた反対すっばいて、中身は何であっても反対すっぞと言う人たちもおんさったですもんね。それじゃいけない。やっぱりいいものはいい、出るくいは打たれるけれど、出過ぎたくいはどんどん自分たちで引っ張っていこうと、引っ張っていくというか、ずっと伸ばしていこうという思いがあると、武雄はもともとすぐれた、そして、しかもやる気のある方々が多数いらっしゃいますので、一致団結して進むという方向になるんだろうなというふうに思います。私自身も反省して、キャラが少し強うございますので、ちょっと一歩引いて、いろんな頑張りをしていただいている人たちを後ろから後押ししていくということが重ねて求められているのではないのかなと思っております。

最後にしますけれども、やっぱりレモングラスというのは物すごく、例えば東京で市長会

があったときに、みんなレモングラスの話をするんですよね。レモングラスとイノシシとがばいばあちゃんと市民病院の話は絶対します。絶対します。ですので、そういう意味で武雄は物すごく注目をされていますので、これはチャンスだと思いますので、それを、風を力に変えていくということが議会と私たちに求められているんではないのかなと、かように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

風を力に変えて、ぜひともこの４年間、またそういう打ち出しをしていただきたいなというふうに思います。

観光協会とか、いろんなところで尋ねてみると、武雄はいいなというぐらいに、「タケさん通信」というのも内容が濃くて楽しいです。私も読ませていただきますが、本当にこういうものがあり、あと「武雄の匠たち」という、（資料を示す）技人と出会うという、こんなのもできていて、本当すごい人が武雄にはお住まいだなということを知るんですね。あとレモングラスの料理、武雄のイノシシと料理のレシピというのも出ています。だから、こういうのが一つになって、武雄ががっちり固まれば、すばらしい観光産業というかな。今、観光で人がたくさん、バスもたくさん来ていますが、実際は通過地点みたいになり得るというか、やっぱりそこに宿泊をしていただくとか、そこでゆっくり滞在をしていただくというところまで持っていくならば、やはり陶芸家の方たちのこういう語らナイトとか、散歩、散策の入ったやつとか、トークショーとか、そういうのに１泊２日に参加するとか、こういう滞在の仕方もあるんじゃないかなというふうに思います。

また、先ほど市長も言っておられましたが、６月26日は陶芸三夜待という形で、６月27日は駅コンという形で、陶芸とピアノのコンサートとかが用意されています。これは外から来る方たちも楽しみにして来られると思いますが、やはり武雄の焼き物を知るというあたりでは、武雄市民の方もそういう自分たちの誇りにできる焼き物に触れてみるチャンスではないかというふうに私は思います。有田陶磁文化館の館長さんとか、いろんな方がお話に来られますので、いいチャンスじゃないかなというふうに思います。

その観光を考えたときに、駅が今着実にきれいにでき上がってきておりますが、駅の改築もあったかもしれませんが、駅をおりたときに、全体の観光案内板というか、そういうのが大体ありますね。三間坂駅もおりたら山内町の案内板があるんですが、武雄には、新市になって、北方、山内を含んだところの観光案内板が見当たらないと思うんですが、それはどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに観光案内板てなかったですね。観光案内板という形はなかったですので、ただ、ほかの例えば京都駅とか、いろんな観光の先進地で見ても、ほとんど観光案内板て機能していないんですね。みんな、例えば「るるぶ」を持ってきたりとか、もう、もともとどこ行こうというのはあるんですけど、ただ、京都の場合は「るるぶ」ですけど、武雄の場合「るるぶ」ありませんので、何らかの形で観光案内板というのは必要だと思っています。

ただ、情報が結構変わりますもんね。そいけん、そこにできれば大きい電子板みたいなので、余り電子電子すると、ちょっとそれにアレルギーを起こされる方もいらっしゃいますので、ちょっと大き目の電子板みたいなのをつくって、そこで触れて、自分が行きたいところというように、今、技術的には可能ですので、そういったことを行うか、あるいは武雄は焼き物のまちでありますので、例えば、陶磁器で観光案内板をざっくりつくるということで、ちょっと観光案内板については設置の検討委員会をつくりたいと思います。そこで、さまざまな陶芸協会の方であるとか、観光協会の方であるとか、いろんな方に入っていただいて、みんなの掲示板、ワンマン掲示板ではいけない。みんなの掲示板で、そういう掲示板をつくっていこう。材質も含めてつくっていきたいなと思っています。これはおかげさまで補助金が幾つか思い当たるところがありますので、なるべく市の負担にならないように、市民の負担にならないように考えて、一石三鳥、四鳥を目指すような観光案内板というのを検討を始めたいと思っております。議員におかれましても幅広い見識をお持ちですので、ぜひいろんな意見を教えていただければありがたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

それはいいものがですね。やはり知らない駅におりたときにほっとするものは、そういうものを見て位置を確かめるというか、自分が行きたいところとか、それはあると、本当に観光に来た人はありがたいんじゃないかなというふうに思います。

それで、昨日でしたか、５番議員が言われていました、それの対応として、今、韓国からのお客様とか、中国語、英語というか、４カ国語対応ぐらいに今なっているんじゃないかと思うんですが、武雄市としては今、案内の方のそういう対応とか、リーフレットとかの対応ですね、それが今どれくらいの対応ができているのかというのと、あとちょっと一歩進めば、やはり市役所の職員の方で、こういう観光で訪ねられたときに、そういう外国語対応ができる方がいらっしゃるのかということをお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

渕野営業部長

○渕野営業部長〔登壇〕

観光客に対応する外国語ということですけれども、昨年度外国人観光客のソフト面の充実を図るということで、英語、韓国語、中国語、台湾語の４種類の観光リーフレットを作成いたしております。それから、今年度ですけれども、駅の観光交流センターに外国語ができる職員の方、これは観光協会の所属でございますけれども、配置をして、外国人観光客の受け入れ体制づくりを進めているところです。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私から２点申し上げます。

１つは、外国人のお客様がお見えになるとき、受け入れの体制をきちんとつくる必要があるだろうと。これは行政だけではできませんので、例えば、武雄の商工会議所さんがやられている韓国語のおもてなし講座も含めて、さまざまなことを行っておられて、非常にこれはすごいことなんですけれども、武雄市が観光業を中心としてそういう受け入れ体制ができるのがまず第一必要だと。それに対してどういうふうにすればいいのかということは、これはきちんと考える必要があるだろうと思っています。

それともう１点が、まず隗より始めよで、武雄市においてそういった外国語をきちんと話す、それと、おもてなしの心を持つ職員をできれば採用したいと。特別枠で採用したいと思っています。これについては正職だとやっぱり、基本的に私の考えは、正職というのはいろんな部署に行かなきゃいけないということが求められていると思いますので、形態としては今のところ嘱託になるのかなと思っておりますけれども、そういう意欲があって、おもてなしをしたいという方々にも門戸を開く。これが樋渡市政の次の人事の採用の、まずＩターン、Ｕターンをして一定の成果が上がった。次は外国語をきちんとお話しできて、おもてなしのある人たちも柔軟に受け入れる。そういうことでウイングを広げて、まず隗より始めよ。それが一つのきっかけとなって、先ほど第１弾で申し上げました体制がつながっていくというふうに持っていきたいなと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

これからそういうところが準備されていくと思いますが、観光に来てよかったというか、本当にすばらしいおもてなしのできる武雄市になっていくように、力を合わせていけたらいいなというふうに思います。

今回の質問の中で、常に市長がバックアップと言っていただいておりますが、陶芸家の皆さん、90窯元ですね、うちの山内地区においてはグループによってまちおこしをされているグループがあります。私の知っているところでは４年続けておられますが、何年も続けてい

らっしゃるところもあって、そういう頑張って自分たちの山内や武雄を元気にしよう、自分たちの陶芸家のグループで元気なまちおこしというか、そういう陶芸祭りとかをやっておられます。そういう人たちがやっぱり厳しい中、テントを借りたり、電気設備をしたりとか、自分たちでお金を積み立てしながらやっています。そこにうれしいことに食育課からうどんとかそばを売ったりとか、イノシシ汁の応援が来たりとか、本当にいいコラボで、いいお祭りができていますので、こういう頑張っている人たちの応援策として、それに応じた、ちゃんと申請してきちんと整えば応援できるような助成金というか補助金、今、広域圏からとか、いろいろそういう話もちょっと市長からも出ておりましたが、本当にそういうので頑張っている人たちが続けていくことができるようなバックアップというのをお願いしたいんですが、市長はどういうお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

例えば、先ほど申し上げたように、杵藤広域圏の中にふるさと市町村圏基金活用住民団体人材育成事業補助金、これは長過ぎますね。これが窯酔いまつり実行委員会におかれては申請をされているんですね。補助対策事業として採択をいたしております。

そういった中で、さまざまな補助メニューというのはあるんですけど、ただ一つ気をつけなきゃいけないのは、これがないと進めないということになると、これはやっぱり本末転倒なんですね。補助金というのは、あくまでもそれを後押しするということが大事だと思うんですね。余りこれを言うとまた嫌われてしまうんですけど、やっぱりそれが後押しになるように仕掛けていくということ。

それと、内閣府であるとか、国土交通省であるとか、こういう補助金というのが民主党政権になって一つふえつつあります。それをうまく活用するということと、もう１つが、なるべく市においても本当に不要不急の事業を組み立てなきゃいけないというつらさはありますけれども、１億3,000万円のつらさはありますけれども、やっぱりこういうのは応援したいんですよね。ですので、そういう意味で、やっぱり気持ちだけではちょっと厳しい部分というのは、補助金というか、制度とか、きちんとスキームを組み合わせるということは絶対大事だと思っておりますので、それは今営業部が非常にたけていますので、そういったバックアップも踏まえながらしていきたいというふうに思っております。

終わりになりますけれども、本当に窯酔いまつりの実行委員会は頑張っているんですね。私も伺って、本当に頑張られていて、やっぱりお客さんが多く集まることがまた次の頑張りにつながっていくと思いますので、その補助金とは別に、お客さんがいっぱいお越しいただくような後押しをしていきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

山内で70窯元ですね。やっぱり70窯元の人が一つになって何かをするというのは本当に難しいわけですよね。だから、やはりできる人たちがグループとかを組んで、山内町、武雄市の発展のため、まちおこしのためという形で頑張っておられるみたいなので、そこは何らかの形、宣伝、広告もそうですが、今、大変厳しい中、そういう後押しもあったら、本当にこれを続けていくことができるんじゃないかなというふうに私は思っておりますので、御支援のほどよろしくお願いいたします。

今、私がこの観光産業のことをお尋ねしてきて、やはり武雄にはいで湯と陶芸のふるさとということと、あと3,000年の大楠とか、本当に武雄はいいねって。あと、こういう私の議員活動をしていて、ほかの市町村の方が、武雄は元気があっていいねって、本当に何かしら話題がすごいねって、それだけでもあなたたちは大変かもしれないけど、それはよそから、外から見ていてうらやましいよというふうにいつも言っていただきます。だから、これを本当に武雄のブランドとして、すばらしい観光産業としてきちんとした根づき方をするように、市長も今後４年間はそういう政策に進んでいってほしいなというふうに思います。

また、これはお答えなくてもいいかもしれませんが、また新しいブランドとして市長が考えていることとか、そういう打ち出しがありましたらお尋ねしたいなと思っておりますが。なかったらいいです。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

新しいブランドは人です。やっぱり４年間、私は４年半前に武雄に志を立てて戻ってきましたけれども、本当に個性的で前向きな方々が、ほかの地区もいらっしゃいますけど、比べて多いなというのは率直に思うんですよね。だから、今までブランドというと、例えば物がブランドになったりとか、イメージがブランドになったり、武雄は元気だというのは、我々が思っている以上に、大阪府の橋下知事があちこちでも言うて回っているんですね。武雄を見倣えということを言っていて、だから、そういうふうにイメージであるとか、物がブランドを超して、今度は人がブランド。武雄に来るとこんなに元気な人がいるんだよ、こんなに陶芸がすごい人がいるんだよというように、ソフト、人の紹介をどんどんしていくと。やっぱりいいものはみんな反応するんですよね。本物はきちんと反応をするということだと思いますので、うまくは言えませんけど、そういう感じでやっていきたい。ですので、先ほど申し上げたように、私はもう一歩引いて、とにかくどんどん前向きな人を押し出していくという役割に徹したいと思っております。私ももう40になっていますので、もうどんどん惑わず

推していくということをしていきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

最後には人ですね。ブランドは人ということですので、本当にいい武雄市、武雄に行ってみたいな、武雄に住んでよかったなと言えるような武雄のブランドづくり、観光産業に力を、本当に皆さん一致団結でやっていけるよう頑張りたいと思います。

それでは、２番目の環境問題に入っていきます。

環境問題の中の１番目に地球温暖化についてです。

本当に地球温暖化という形で異常気象が続いております。農業支援とか、農業振興とかいう形でも一番大変なのは、今、異常気象によって作物がとれたりとれなかったりとか、いろんな形が出てきております。ことし１月の長雨によって麦の分けつができずにできが悪く、それで４月の遅霜寒波によってまた麦の不作になったり、あとタマネギがやはり１月の長雨と４月と寒波によって実が大きくならなくて、何反とつくってあった方が、収穫する経費を考えたらということで、もうタマネギをそのまますき込んであったんですね。そういう異常気象の中、本当に私たちにできる地球温暖化対策というのを真剣に取り組んでいかないといけないんじゃないかなというふうに思っております。

その一つとして、今、自然エネルギーという形で太陽光発電とかの取り入れとか、いろんな形で取り組みがなされておりますが、市長は、自然エネルギーの導入ですね、予算も昨年よりは多くつけていただいております。導入の状況、今後の取り組みですね、そういうところのお話を聞きたいと思いますが、お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私としては３点考えています。

１つは、太陽光で２点になりますけど、住宅用の太陽光の発電システムの導入を昨年度から続けて、きちんと拡充しながらやっていこうというのがまず１点。

２点目は、やっぱり教育なんですね。議員も御指摘を以前されましたけれども、武雄小学校及び武雄中学校の改築、改修に向けて太陽光発電システムの導入を検討していきたいと。何ワットとかなんとかというのが出るんですよね。それが例えばこういうふうになっていくんだなというのがもう見てわかるように、体感してわかるように学校にどんどん導入をしていきたい。

それと、今、日本全体がともすれば太陽光ばかりを注目しておりますけれども、例えば、武雄も大変お世話になっています酉島製作所さん、大阪府の高槻市に本社がある酉島製作所

さんは、小力、小さい力、あるいは省く力、省力ですよね。小力の風車の開発をどんどんされていて、これ日経新聞にも何回か載っているんですけれども、そういう太陽であるとか、風であるというのを生かしてしたいというふうに思っています。これについては、１億3,000万円という訴訟費用がありますけれども、こういう子どもたちの教育については、やっぱりそれは優先順位というのを変えずに、これはぜひやっていかなきゃいけないということを思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

次の質問で公共施設における自然エネルギーの導入ということでお尋ねするようになっていたんですが、武雄中学校の改築及び山内中の基本設計が上げられておりますが、もうその中には太陽光発電が取り組んでありますかということで、もう取り組んでいるということですね。

やはり環境対策というか、環境に進んでいるところは、福岡の大木町ももう既に小学校全校に太陽光発電がついているとか、ことしの２月に設置された千代田町の保健センターとか千代田文化会館などは合わせて120キロワットの太陽光発電がつけられていて、年間の半分の電気代が賄えるようになっているということで新聞に載っておりました。やはり今ちょうどそういう改築の時期に当たったりするときには、そういう設置をしていただきたいなと思っておりましたので、このことは本当にひとつよかったなと思います。

あと３番目に、壁面緑化の計画ということで前回も上げました。昨年はちょっと寂しい壁面緑化だったと思うんですが、ぜひともことしはグリーンが映えるような壁面緑化に力を入れていただきたいと思っているんですが、見るところによると、政策集でいくと、それが全体のことではなかったかもしれませんが、平成23年、24年と壁面緑化とか、そういうグリーン作戦に力を入れていくというふうになっていましたが、これは、ことしもできることなので、どうでしょうか、すぐにでもできる緑化活動じゃないかと思います。この壁面緑化をすることによって二、三度室内温度を下げることができるということなので、やはり市役所から、公共施設からそういう打ち出しができるといいなと思いますが、お答えをお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

今壁面緑化の話がありましたけれども、昨年度は完全ではございませんでしたけれども、今年度も庁舎に緑のカーテンを配置し、室温上昇の抑制に努めるように努力をしているとこ

ろでございます。ゴーヤ、ヘチマ、ヒョウタン、アサガオなど200苗ぐらいを庁舎とまちづくり部棟の南側のところに配置しているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

ことしは緑化による快適さというのを味わえるんじゃないかと思います。

その１つが、今ちょっと言っていたことで、市長の政策集の中で23年度から緑のボリュームアップ事業を開始します。予算は100万円というふうになっていますね。24年度からグリーンビル化事業を行います。予算は100万円としますというふうに、予算のあることだから、23年度、24年度と分けてあるのかもしれませんが、こういう打ち出しというのは、もう今からでも打ち出すことができるんじゃないかというふうに考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やりたいのはやりたいんですけれども、全部をだっとやるとやっぱりあれなんですよね。どうしても、うまくいっている部分、いかない部分というのはあるんで、一つ一つ、私の好きな言葉に「着実」という言葉があるんですね。ですので、一歩一歩進めながら、次のステップに入っていくといったことが、この４年間にかけて結果的に広がりが出てくると思っております。「慎重に」という言葉も好きです。

ただ、今回、予算をあえて掲げていますけれども、やっぱり１億3,000万円の訴訟の費用なんですよ。やっぱりお金がかかるといったときに、こういうことをやりたいと言っても、やっぱりこういった事業から削らざるを得ないということなんですね。あれもこれもということじゃなくて、あれかこれかというときに、あした10時からの議案審議で審議されますけれども、総計で最終的に１億3,000万円になろうかと思うんですけどね、それがやっぱりいろんなところに影を落としていくということを、ぜひ議員各位には御理解していただければありがたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に予算のかかわることです。着実に進めていただきたいと思います。

意識的に家庭の庭とか職場とか、そういうところには皆さんが緑化運動をしましょうみたいな声かけはお金が要らずにできるので、そういうところは自分自身もそうですが、そういうふうな動きをしたいと思います。

あと、これはまた予算のかかることでちょっとあれかもしれませんが、これはお願いがあります。山内町にプールがあります。その手前に子どもプールがあるんですが、山内町時代にもお願いして、子どもを見るところの休憩所の屋根はつけてもらったんですが、今、この地球温暖化によってすごくオゾン層が破壊されて、悪性紫外線が本当に強いんですよね。大人でも危ないと言われております。今、皮膚がんが多かったり、白内障が多いというのがその影響だと言われておりますが、子どものプールのところにやはり屋根をつけないと、乳幼児は裸で遊びます。だから、それがわかった親御さんたちは長袖の水着とか、そういう形を対応しないといけないかもしれませんが、乳幼児の遊ぶプールのところには屋根をつけていただきたいなというふうに思っているんですが、今は学校のプールとかもそういう施設に屋根をつけるような形の運動が起こっております。ちょっと遅いかなというぐらいあるんですね。だから、乳幼児の遊ぶところはせめて屋根をつけていただきたいなというふうに思っているんですが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど山口裕子議員の御指摘は、以前、山口議員候補だったとき、あるいは私が候補だったときに、集会でお母さん、あるいはおばあちゃんがお話をされたので、今、事務方に実は指示をしています。それに加えて、マットですよね。照り返しのマットではもう熱くて歩けないということも含めて、やはりそれは現場の皆様方の声を踏まえて丁寧に着実に施策をすると。要するに、弱い立場の方々にきちんとした政策を届けていくといったことからこれはやろうと思っています。

ただ屋根は、やっぱりしっかりした屋根をつくると数千万円かかるんですね。ですので、これ再三申し上げて恐縮なんですけれども、やっぱり１億3,000万円なんですよ、本当に。どうですか、本当。宮本栄八議員よろしいでしょうか。私、まじめにこれ語っていますので、やはりそういう事業をやりたいんです。本当に子どもの皆さんたちが紫外線でいろんな話であるとか、発がんの可能性があるんですよね。そういう事業も例えば100万円、200万円単位だったらそれできるんですけど、やっぱり安全性を考えると、1,000万円を超すオーダーになると、どうしても予算の兼ね合いというのが出てまいります。これについては補助金もないんですね。学校の施設整備の補助金というのが、この屋根に関しては見当たらない。新しくつくるときはあるんですけれども、今あるところに出していくというのは、文科省が霞が関の中で余り強くないので、それはない。なったときに、単費になるときに、やはり予算というのを考えなきゃいけない。余りこういうことを言うのは私は得意ではありませんけれども、それはぜひそういう中で考えなきゃいけないということですので、これについては本当はやりたいのはやまやまです。やらなければいけないということもよく思っておりますけれ

ども、ちょっとことしに関しては、訴訟費用の兼ね合いでちょっとやっぱり御遠慮をさせていただかなければいけないと。これは悲しいながら、そう申し上げざるを得ません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

予算のかかることですが、やはりもう今からは、こういう地球温暖化というのが昔とは違って、もう使用を中止しないといけないとか、そういう注意書きをしないといけないような時代になってきたということですよね。ＵＶ指数が高くて、もう日中直射日光には10分以上当たられませんとか、そういう指数がもう出ていますよね。だから、乳幼児のプールの使用は、昼間、何時から何時までは使用を禁止ですとか、そういう形とか、保護者さんに長袖を着て遊ばせてくださいとか、そういう対策も必要になってくるのかとは思いますが、できれば屋根ができて伸び伸びと遊べたらいいなと私は思っておりますが、今後、そういう対策も練っていただきたいなと思っております。

それでは、次に循環型社会に移らせていただきます。

これはきのうの上野議員からも出ていたことで重なってはいるんですが、また私との視点、重なるところもありますが、どうしても言わないといけないところなので言わせていただきます。

ごみ特区補助ということできのうも出ておりました。３地区が受けてですね。私の地区が一地区受けて、ほかの２地区も大変いい結果が出ているというふうには聞いております。私も本当に何とかせねばならないという気持ちで、一人でも多くの方にこういうごみ減量の意識を持ってもらうために、このごみ特区制度を使わせていただきました。そのことによって、私たちはＥＭバケツを１人２個購入して、毎月15日にＥＭぼかし菌をつくって、それにより生ごみを堆肥化するという運動をしました。そして、環境先進地のまちの環境施設に２回ほど研修に行ったりして、毎月毎月そういう話を出し合いながらごみに対する意識を高めてきたところであります。私たちにとっては本当にいい特区ではあるんですね。

だけど、これを広めていくって、今まで環境問題というか、環境活動をしてきて20年になりますが、本当に常々言っておりますが、その意識の違いというか、それがごみ処理がすべての人の税金で処理されているというところで、意識のある人とない人の差が出てきて、やはりそこでどこか続かない。こういう環境対策というか、している人としていない人の差が出てきて、なかなかそれが広まっていかないというところもあるわけですね。もちろん根気強く続けていかなければならないとは思っております。きのうの上野議員の話を聞けば、本当に何％のごみで、生ごみが何％でということでよくわかりやすかったと思います。水を切って出せば、これだけ経費が少なくなるということもよくわかりました。

私がきょう打ち出したかったのは、上勝町の話、ごみゼロ・ウェイスト作戦とか、福岡の大木町の生ごみゼロ作戦とかのことを知って、武雄市も目標を持たなければ本当浸透しません。特区をどんどん上げてもいいと思いますが、これを続けても、やっぱり環境課、市長、リーダーが、うちはこういう宣言をするというふうに決めていただかないと、本当にこれは一部だけで、20年活動してきてもごみは減りませんでした。地球温暖化もよくなりませんでした。本当にすべてが悪いほうに行っているとは思いたくないですが、そういう意識や活動している人はとんどんふえてきたので、私はうれしく思っておりますが、やはり市が目標を掲げて宣言して、武雄市は何年までに生ごみは焼却しないという約束をする、そういう宣言をしないと私は何も変わらないと思います。

で、40％です。リサイクルで一番しやすいのは、生ごみが40％排出されているということを聞くと、この40％を出さないということだけで簡単に削減できるじゃないですか。生ごみはもう出しません、焼却しませんという形を出せばですね。それの対策というか、それの周知を回っていけばいいと思うんです。それをするためには、武雄市はコンポストがあります。ＥＭぼかしの堆肥化があります。あとは畑とかなんかない人は電動型の堆肥にする処理機がありますという形で、皆さんはどれを選ばれますかという形で、今はその補助金もほかの市から比べたら武雄市は高いですが、きのうの利用率を聞いてもですよ、電動処理機が５台とか、ＥＭポットをうちが60台買いましたから、それが含まれて七十何台ということですよね。本当に歯がゆい思いというか、一生懸命広げていこうとしている人たちにとってはなかなか伝わらないというか、堂々めぐりとかいう気持ちでいっぱいになるんですよね。

だから、きのうもあったように、佐賀市がCO_2削減25％を目標ということで環境都市宣言をされました。その内容は、るるたくさん何項目か上げられています。きのう上野議員も話されておりましたが、この環境都市宣言は、2020年までに佐賀市はこういうふうにしますという宣言がされております。大木町は、大木町もったいない宣言、ゼロ・ウェイスト宣言として2016年までにごみゼロ作戦をされております。それによるリサイクルということを考えれば、今からごみの出し方とか、水の切り方とかを周知していくとすれば、私は家庭から生ごみを焼却しないということを目標にして周知することを進めれば、本当に40％がぴたっとなくなると考えれば、６億円のごみ処理代というのから簡単に計算すれば40％減るということで、ちょっと大まかに計算すればそれだけが浮くというんですね、極端に考えれば。そこまではならないかもしれませんが、そういう形になりますよね。

だから、市長、市町村の環境課とか、いろいろなところに勉強に行くと、やっぱり考えはトップにありますというふうに言われます。そこで動いている職員さんたち、すばらしいですねと言っていろいろ質問すると、やはりここはトップがこれでいくと決めてもらっているから、私たちはそれに従って動いているだけですよというふうにお答えをされました。だから、武雄市は５年後に生ごみは焼却しない方法をとるとか、そういう宣言というか、そうい

う目標計画を上げないことには、ずっと微々たるお金ではあっても、幾らでもお金をずっとつぎ込んでも解決しないというような状態じゃないかなというふうに私は思いますので、そういう考えを市長はどうお考えかをお尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄市に帰ってきてもう４年半ぐらいたつんですけど、武雄市てワンマンて嫌いなんですね。やっぱりそれで私がここでどすんと言ったことに、じゃあ人がついてきてくれるかと言ったら、生まれてくるのは多分反発でしょう。私は市民病院の民間移譲のときに、今、訴えられていますけれども、そのときに、これはもう私でなければ解決はできないと思ったわけですね、もうこれは。ですので、その使命感を持って今まで突き進んでまいりました。いっぱい返り血も浴びて、今も浴びております。それと今回の環境宣言で私が申し上げるというのは、ちょっと意を異にしていると思うんですね。武雄の場合に多分なじむのは、今、特区をやっていて、そこで実行可能性のものを提言してほしいんですよね。さきの上野議員の御質問のときに、報告会をぜひ私も聞きたいといったことで、その実行性のあるものを聞いた上で、今度また３地区ふやそうと思っておるんですけれども、その中で、これはいけるぞといったこと、これがないとやっぱり地に足がつかないんですね。ですので、その中で例えばごみゼロであるとか、CO_2の15％であるとかというのを、特区の皆さんたちが、いや、これだったらこうすればできるといったことをおっしゃっていただいたときに、私はその宣言というのが、それはトップの役割だと思っています。

ですので、やっぱりワンマン環境からみんなの環境だと思うんですよ、これは。ですので、そういった中で、私としてはいろんな特区、特に特区は山口議員を初めとして物すごく意欲的に行われている方々のこと、それはここまでしたら、きのう上野議員がおっしゃったように、水切り、乾燥、されていましたね。ですので、ああいうことで例えば20％水の量が減るであるとか、そういったことで、特区の皆さんたちに教えてもらって、それを４年間のうちにできれば、そういった宣言はぜひしたいと。そのときがトップの役割だと思っておりますので、そういう意味では、議員と認識は同じくするものであります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

ちょっと順を追って、どういう形が一番いいのかという、市長が今言われたのもよくわかります。

上勝町の例とかを言いますと、小さい町ですから、そこは1995年に全世帯に電動処理機、

そのとき８万円したものですね。それを住民の方が１万円負担ということで、電動処理機を使うも使わなくても全世帯にそれが行き渡ったわけですね。あとは堆肥化する人とか、田んぼに入れる人とか、それは自由なんですが、家庭から生ごみを一切出さないですね。やっぱりそこの町長の信念が、ごみ処理のような非生産的なことに大切な税金を使ってはならないという信念があられて、やっぱりすべてのごみは資源であるという根本を大事にされてこういう政策を立てられたわけですね。これが今いろいろな市町村に飛び火して、いろいろな市町村のやり方で生ごみの堆肥化に取り組む形とか、ごみをゼロにしようとか、そういう形が生まれてきておりますので、私はぜひとも流れとして、生ごみ40％を堆肥化にしたり、堆肥化にできないアパートとかマンションの方は電動ごみ処理機を使って公園に戻すとか、そういう形をとればできないことはないというふうに思います。

そして大事な資源を処理するために６億円使われている部分が、そうすれば１年で２億円とか３億円浮くんじゃないですか。そういう永続可能な社会に向けて、もう本当に世界は６％CO_2を削減しようと言ってもできなかったり、日本もできなかったりという形で、なかなか政策の立て方にあいまいさがあるんじゃないかというふうにいつも思うので、私はこの問題を市長に投げかけてみました。ちょっと市長の意見をもう一度お聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど御答弁すればよかったんですけれども、やはり議員がさっき御指摘あったように、上勝町て割と小さなところで、大木町もそうなんですよね。ですので、ちょっと武雄市の場合が人口が５万人を超していますので、そこでやっぱりどんと単一的にするよりは、これは私の一つ提案なんですけれども、例えば、山内町が宣言をするというのはあるのかなと、あるいは議運の委員長さんと目が合いましたので、橘町がこれを行うとか、吉川議員の朝日町が行うとか、目を伏せていますけれども、あるとか、そういう町単位というので行うというのは新たな地域主権の一つのあらわれかなと。要するに、国から県に権限が行って、県から市に行くと、その市の流れというのは今度町に行くと思うんですよね。だから、町単位で行うということが多分実行性としては、そしたら、例えば小池議員がいらっしゃる北方町が宣言をされませんか。されますか、わかりませんけれども、仮にされるとするならば、そこにじゃ自分たちも次はついていこうとか、あるいは自分たちはちょっと違うものをしようといったことになるのかなと思うので、町の一つの単位としてこれは実行性としてはしやすいのかなと。ですので、環境の場合でいうと、町が全部人口は少ないと言うつもりはありませんけど、割と勉強してみると、市よりも町のほうが進んでいるんですね、あるいは村が。それは、そこに人口とまとまりの面積の一つの固まり、狭さというのがあるのかなと思っておりますので、どうでしょうか。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

４番山口裕子議員

○４番（山口裕子君）〔登壇〕

前回もこの問題になったと思うんですが、どこの勉強に行っても、そこの市町村の環境課の方が言われます。大きいからできないことはないですよと、都市が大きいからできないことはあり得ませんと。自分たちの2,000とか１万とかの地区が５つ集まっていると考えれば簡単ではないですかというふうに、いつも質問してはお答えをいただいておりますので、また市長にお答えを返したいなと思うんですね。だから、やるかやらないかのところだと私は思います。

でも、本当にここまで危機が来ているという、環境破壊というか、資源の枯渇、本当に破局まであとわずかと言われているし、私たちが無関心であったばかりに、子どもたちの時代が本当に何の資源もなく、環境破壊された状態を私は残したくないというふうに思うわけですね。だから、言いわけをしないような生き方をやっぱり子どもたちに残してあげたいというふうに私はいつも思っております。私も自分のできるところでやってはきていますが、そのもどかしさをいつも感じるわけです。ここはして、あそこはしないとか、そういうことは言わないで、自分たちが一生懸命していて、子どもたちのためとか、本当にいい野菜ができたり、循環型ができたらいいじゃないというふうにして広めてはいますが、やっぱりそこら辺の統一性を欲しいなというふうに思って、今回、提案させていただきました。

やはり生ごみが発生する家庭で処理をしてしまったら一番税金はかからないわけですよね。自分ところで処理をする。まだ田舎だから田んぼや畑に返している人もたくさんいるし、一番やりやすいところは、うちの地区なんか畑や山がたくさんあるところはしやすいと思うんですね。だから、今度ＮＰＯとかいろいろ、環境課の人たちが生ごみの水切りとか周知していくというならば、私は生ごみをもう出さないということで周知していくと早いんじゃないかなというふうに思ったので、ここで提案させていただきました。

もう本当に大量生産や大量廃棄、大量消費の時代は終わったと思うんですね。本当にいいものは残して、いい武雄市、永続可能な社会へ向けての取り組みを市長に力を入れてやっていっていただきたいと思っておりますが、最後にお答えをお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

力を入れてやっていきたいと思います。

〔４番「これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました」〕

○議長（牟田勝浩君）

以上で４番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。